

Title	執筆者紹介
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1969
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.42, No.2 (1969. 11) ,p.129(263)- 129(263)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19691100-0130">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19691100-0130</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

して見ていく。そのために、社会民主党の性格、(革命前及び革命時に於ける) 労兵協議会の内容、そして社会民主党と労兵協議会の関係を調べたい。第一次大戦前ヨーロッパの社会主義政党は修正主義路線をとり、革命政党というよりは、むしろ体制内政党になりかかっていたが、ドイツ社会民主党も例外ではなかった。

この傾向を強めたのは第一次大戦中この政党のとつた態度である。社会民主党はロシアのボルシェヴィキを防ぐためという理由で戦争に賛成したが、それ以来この政党は支配政党と著しく接近した。即ち、体制内政党に変わり、革命政党としての機能を失つた。大衆が平和への要求、皇帝の退位、社会主義革命等色々の要求をもつて立上つた時、その要求にそう処置をとることが出来なかつた。一方、労兵協議会の方であるが、この協議会は社会主義革命という明確なヴィジョンを持つて現われたのではなく、平和への要求、労働者や兵士の権利の獲得、待遇の改善、そしてある場合には、社会主義革命を要求して自然発生的に作られた。革命がすすむに従つて労兵協議会は独自の要求を明確にしはじめた。しかし、社会民主党は労兵協議会を中心とする下からのエネルギーを充分にはコントロール出来ず、この革命は、革命を支配する政党間の対立を包みながら紆余曲折を経た。結局は、多大の犠牲を払つて、議会制民主主義の国家におちついていった。(本塾大学院文学研究科修士課程在学)

執 筆 者 紹 介

米 田 治	慶応義塾大学文学部助教授
伊 藤 清 司	同 助教授
小 川 英 雄	同 専任講師
か 児 弘 明	同 助手
坂 口 昂 吉	同 専任講師
会 田 倉 吉	慶応義塾大学史資料室主事 慶応義塾大学文学部講師